

平戸の世界遺産を巡る  
平戸周遊マップ

長崎地方の  
潜伏キリシタン関連遺産

## 平戸におけるキリスト教の歴史

### 伝来と繁栄の時代

#### 1. 西の都「平戸」で布教が始まる

1550年、すでに海外との交易が盛んだった平戸の港に日本で初めてポルトガル船が入港しました。日本国内で、各地の戦国武将が領地を広げようと互いに争っていた戦国時代が終わりに近づいていたころでした。同年、宣教師フランシスコ・ザビエルが平戸を訪れ、布教を始めました。（後に天門寺という教会堂がここに建てられました）

### 伝来と繁栄の時代

#### 2. キリスト教が広がり、教会堂が建てられる

当時、松浦隆信（1529–1599）が大名として平戸藩を治めていました。松浦隆信は交易の役に立つかもしれないと考え、家臣の籠手田安経とその弟一部勘解由がキリスト教に改宗することを許しました。

1558年と1565年、籠手田兄弟の管轄領であった生月島および平戸島西海岸地域の住民はキリスト教に改宗し、この地域は日本で最初にキリスト教が栄えた場所となりました。キリスト教が広まるとともに、キリスト教とその信者は、どちらも同じ「キリシタン」という語で呼ばれました。

### 禁教と密かな継承の時代

#### 3. キリスト教の弾圧が始まる

戦国時代を終わらせるため、全国統一を進めていた豊臣秀吉（1537–1598）は、1587年にキリスト教の神父を国外に追放する法令を出しました。しかし、平戸で本格的に弾圧が始まったのは、1599年それまでキリスト教に寛容であった松浦隆信が亡くなり、信徒であった家臣の籠手田安経と一部勘解由が領地を追われてからでした。

### 禁教と密かな継承の時代

#### 4. 潜伏が始まる

それまで平戸にあった教会堂や十字架は破壊されました。表向きにはお寺や神社を受け入れつつ、キリシタンの信仰も密かに守り続ける地元のキリシタンは、「潜伏キリシタン」と呼ばれ始めました。

彼らは「納戸神（納戸に隠された神様）」を祀って、「オラシヨ」というキリシタンの祈りの言葉を唱えながら、信仰を代々受け継いでいきました。

### 解禁と復帰の時代 その1

#### 5. 密かに継承された行事を続ける

禁教が解かれたあとも、禁教時代に密かに守ってきた信仰の形態を継続した人たちがいました。かくれキリシタンと呼ばれる彼らは、この地で信仰を守って亡くなった祖先を崇拝し、祖先が殉教した場所を聖地として扱いました。

今日の日本のカトリック宗派のキリスト教徒とは異なり、かくれキリシタンは自分たちの教会を持っていません。代わりに、かくれキリシタンは禁教時代と変わらず、仏教や神道を並行して信仰する独自の信仰形態を実践し続けています。この信仰のキリシタン信仰に関わる部分に注目すると、16世紀後期から17世紀初期のキリスト教の原型が保持されていることが分かります。

## 解禁と復帰の時代 その2

### 6.キリスト教への復帰

1853年のペリー提督の来航で、日本の鎖国は終わりを迎えました。1865年、長崎の外国人居留地に建てられた大浦天主堂に、潜伏キリシタンの一団が訪れたことで、日本の信徒たちが長い弾圧の時代を通してキリスト教の信仰を守り続けた事が世界に知られました。

1873年、明治政府はキリシタン禁制の高札を撤廃しました。カトリックの神父が各地で布教を行った結果、潜伏キリシタンたちは信仰を明らかにし、集落に教会堂を建て始めました。